

## ■ 編集だより

## 編集後記

アルジェリアの石油精製プラントにおける、イスラム過激派による襲撃事件で、多数の日本人が殺害されました。衷心よりご冥福をお祈りします。教室員が外務省の医務官としてアルジェリアに赴任したことが縁で、2年前に首都アルジェの日本大使館にお邪魔しました。アルジェリアは、長年にわたる旧宗主国フランスとの熾烈な戦いの後に独立を果たしたのですが、軍事独裁に近い統治体制が長年続いています。ただアフリカ随一の資源大国で、一部の人たちが富が独占されています。今回はその地下資源開発企業が狙われたわけです。チュニジア、エジプト、リビアなど隣国で起こった民主化の波にも影響されず、民主化からほど遠い現体制を堅持しています。首都アルジェもインフラが全く未整備で医療施設も極めて不十分な状態です。日揮のようなプラント建設企業を中心に日本人が駐在していますが、外務省の職員も一応家族を同伴できる最低限のレベルの国という判断がなされています。一般に外国人はアルジェ市内以外の外出は禁止されているのです。今回の事件が起こったのは内陸の砂漠地帯です。内陸部はアルカイダが多数潜入しており、以前から治安が悪いと言われていました。アフリカは、家族を同伴させることができないレベルの国が多数存在します。医療水準が低い国に外務省の医務官が多数派遣されているのです。医務官は在留日本人を対象に必要な最低限の医療を提供しています。最近では、私どもの教室員のように精神科医の需要が急増しているようです。アルジェ市内も徒歩で自由に歩ける雰囲気ではありません。ホテルは郊外に数件アメリカ資本のものがある程度で、レストランを探すのも一苦労といった状態です。医務官は家族とアルジェの中心部の大きな一軒家に住んでいたのですが、自宅近くに気に入ったパン屋さんがあり、よく購入していたらしいのです。しかし、ある日その店に行って非常なショックを受けたそうです。パン籠にねずみの糞が多数入っていたそうです。赴任社員もさることながら、その家族のストレスたるや相当なものです。子供の教育も大変とのことでした。教育水準が低いのと、現地語での教育ないしはフランス語での教育ではさぞかし大変なことと思います。家族が抑うつ状態になり精神科治療の必要性が高まっています。日本人のストレス耐性が低下し、日本の豊かさから隔絶した世界で生活するというストレスに現代日本人は耐えられなくなっているのです。日揮のような会社も日本国の国力維持には是非とも必要でしょうから、今後もこのような危険と背中合わせに活動が続けざるをえないのです。国内外のメンタル・ケアの重要性が益々声高に叫ばれています。我々精神科医の守備範囲は広がる一方です。

木下 利彦